

シラチャ校だより

泰日協会学校

シラチャ校

1 7 09



チェンマイ修学旅行の引率をして

6年担任 湊 俊一

6年生と言えば、修学旅行。小学校生活一番の思い出に挙げられる行事です。私は、6年生の担任として、バンコク校の児童・先生方とともに、10名の児童を引率して、チェンマイへ行ってきました。一番の願いは、子どもたちを安全に行動させることでした。命・健康なくしていい思い出はできません。

1日目は、シラチャを5時前後に出発し、スワンナプーム空港へ。空港で児童は約250名のバンコク校の同級生と対面しました。初日は、人数にも圧倒されたのか大人しい様子でした。ホテル到着後、昼食をとってメーサーエレファントキャンプへ行きました。象が描く絵にとっても感動したようでした。その後象に乗りました。象の大きさ、高さに驚きながらも、景色を眺めて楽しく乗れたようでした。「明るく」振舞う子どもたちの無邪気な姿が印象的でした。食事も和洋泰折衷の大変おいしい料理をいただきました。初日は起床が早かったせいか、すぐに床につきました。

2日目は、メーゲットノイ村の見学とメーゲットノイ校の交流会がメインでした。子どもたちは、タイの高床式住宅を見学し、広いトウガラシ畑を見ることができました。地元の方が出してくださったお米のせんべいもおいしく食べられたようです。その後、メーゲットノイ校での交流会。シラチャ校は、折り紙を使った交流を行いました。本校の子たちは、鶴や蓮の花を教え、メーゲットノイ校の子たちから七夕かざりのようなきれいな飾りを教えてもらいました。その後ホテルに戻って部屋間交流を行いました。大騒ぎすることもなく、他のお客さんのことも考えて行動できました。交流会で、グループ内の意見の対立がありましたが、ナイトバザールへ買い物に出かけたときには、それも解消し、男女互いのことを考えて「なかよく」行動できました。子どもたちは事前に立てた計画に沿って、買い物を進めました。買い物上手な子もいて、財布の紐もなかなか固かったようです。2日目も、体を存分に動かしたせいか、9時30分の就寝時刻を守り、すぐに眠りについたようです。

3日目は、チェンマイの有名な寺院、ワットドーイステーブの見学でした。金色の見事な仏塔は、やや曇った中でも一際きれいに見えました。仏塔までの306段も疲れを見せず上っていく子どもたちは「たくましく」見えました。3日間親元を離れて過ごした中で、寂しさを見せる子もいるのではないかという私の危惧を吹き飛ばすほどに、帰りの飛行機の中でも談笑しながら帰路を過ごしました。それでも、スワンナプーム空港でおうちの方を見たときには、安堵の表情を浮かべていました。それは、保護者の方々も同じだったようです。

私が、本年度学級目標に掲げた言葉は「Respect」です。直訳すると「尊敬・尊重・敬意」ですが、私はそこに、「感謝」の意も含みたいという願いがあります。他者への尊敬・敬意を払うとともに、感謝の気持ちを持たせたいのです。この学級目標の点で見ると、修学旅行は実に「尊敬・感謝」をせずにはいられない行事です。修学旅行へ物心両面にわたって支えてくれた親、シラチャ校単独では実施できないであろうこの旅行に同行したバンコク校の友だち、チェンマイで子どもたちを受け入れてくれたメーゲットノイ村の方々・学校・ホテル・ツアーリストポリス・ガイドさん…、チェンマイへの修学旅行を計画した学校。そうした多くの方々や施設等に感謝の気持ちを持ってもらいたいです。

最後に、子どもたちは、大きな怪我もなく帰途に着きました。それが何よりです。家に帰った子どもたちは、どんなことを話したのでしょうか。どんな思いを語ったのでしょうか。そして、小学校生活、シラチャ日本人学校生活の一番の思い出になったのでしょうか。この旅行に尊敬・感謝の気持ちを持って、一生の宝になるような思い出を持ってもらえたら、私はうれしいです。

私からも、この修学旅行が、所期の目的を達成できたことに対し、関わられた全ての方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

